

の

乗り切る力を育てる教育内容を

【実際に高校で行われた合理的配慮の例①】

困難さを改善・克服するための配慮

◆調理手順に戸惑うASDの生徒

⇒事前に調理の手順表を渡して、自宅でも練習できるようにしたことで、スムーズに実習できた。



◆全体指示が通らないADHDの生徒

⇒生徒自ら教員にたずねられるように配慮し、自分のメモ帳に記入する習慣の定着を図った。

学習内容の変更・調整

◆右目の視覚障害の生徒

⇒体育の球技の時間にパス練習ではボールが速すぎて追いつけないため、自分のペースでできるドリブル練習に変更した。



※ 事例の詳細は、「インクルDB」のネット検索で確認できます。